

II . 円海山近郊緑地特別保全地区の現状

円海山近郊緑地特別保全地区は、栄区と磯子区にまたがる、面積約 100ha の緑地である。

1 . 地形

- 1) 中央に分水嶺となる山（以下「源流の山」）があり、その山の東に大岡川の源流、西にいたち川の源流と、その源流を取り囲む斜面がある（図3の囲み）。
- 2) 源流の山の東は、その周囲を緑地に囲まれた中心に位置する（図4）。
- 3) 西よりも東の方が高い尾根が多い（図5）。
- 4) 急斜面が多く、小さな沢が複雑に入りこんでいる（図6）。

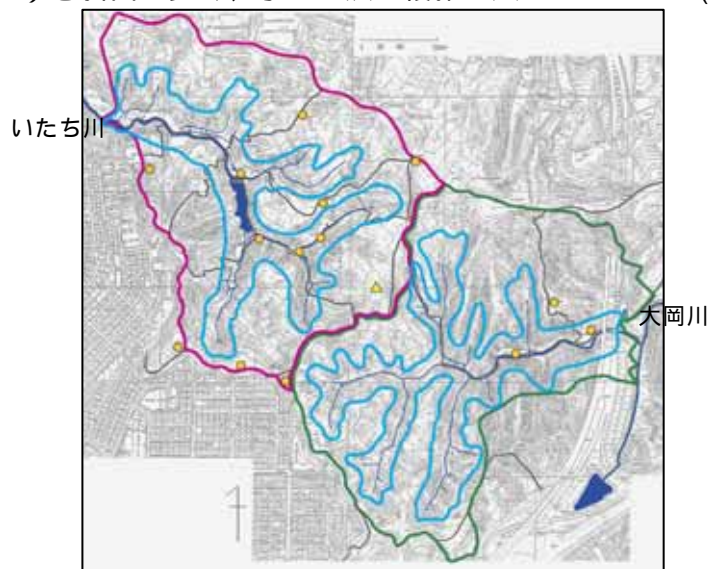


図3 . 地形

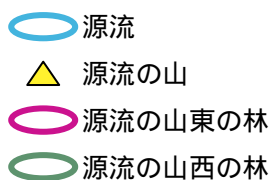


図4 . 空から見た近郊緑地特別保全地区

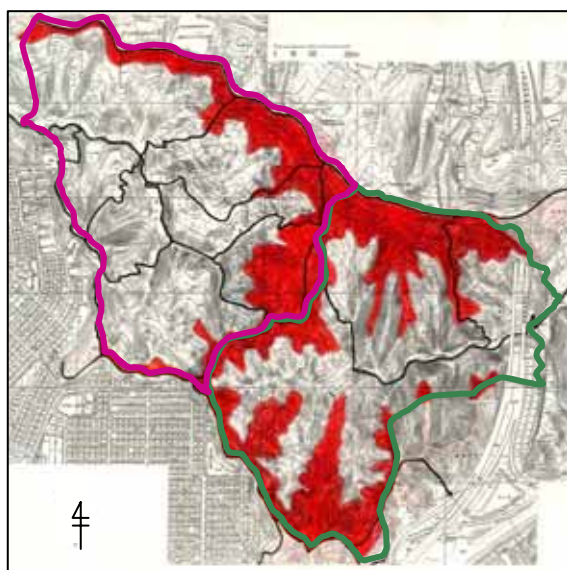


図5 . 標高 100m 以上の尾根

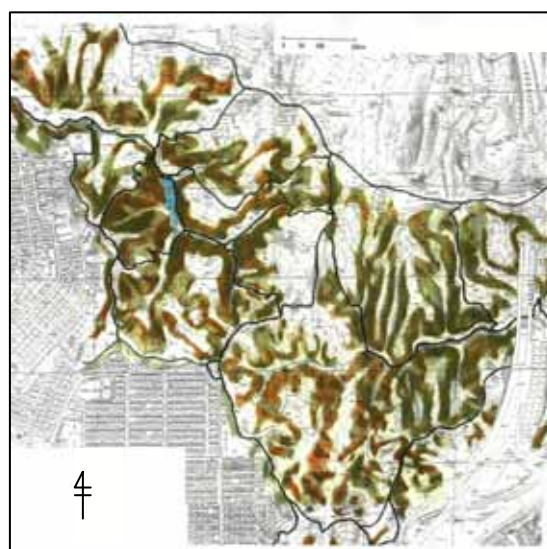


図6 . 30度以上の斜面

2. 樹林の現状

- 1) 常緑樹の割合が高い場所が、源流の山の西よりも東に多い(図7, 8, 9)。
- 2) 西よりも東に大木が多く、その大木は、西側よりも東の方が、常緑樹の割合が高い(図10)。
- 3) 手入れされていない、スギ・ヒノキの針葉樹の植林が多い(図11)。
- 4) 希少生物が生息している場所は点在している。希少植物はほとんどが草本。希少鳥類は、広い面積の樹林にすむ種、高い高木の樹林にすむ種、低木やササのやぶにすむ種など、様々な環境の鳥が生息している。

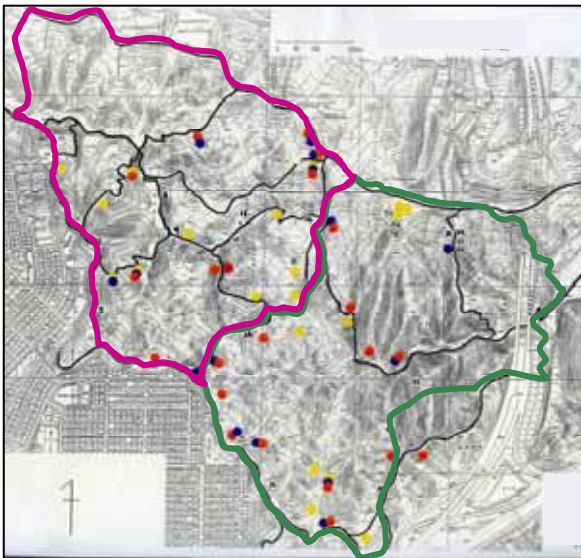


図7. 市民で調べた現在の林相
常緑樹林は少なく、針葉樹林・
落葉樹林・混交林の方が多い

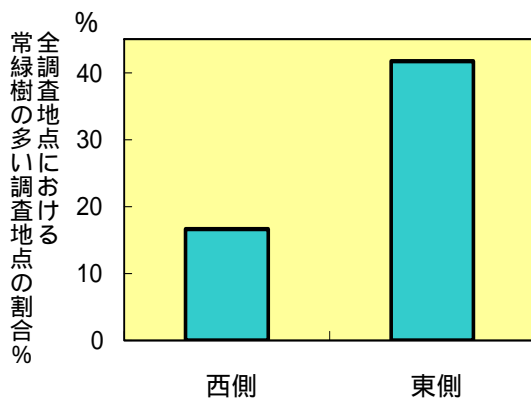
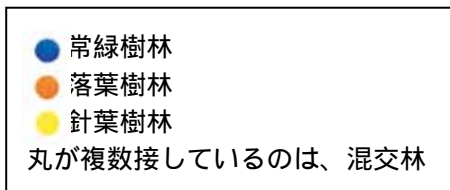


図9. 市民で調べた林相調査地点のうち
常緑樹が多い調査地点の割合

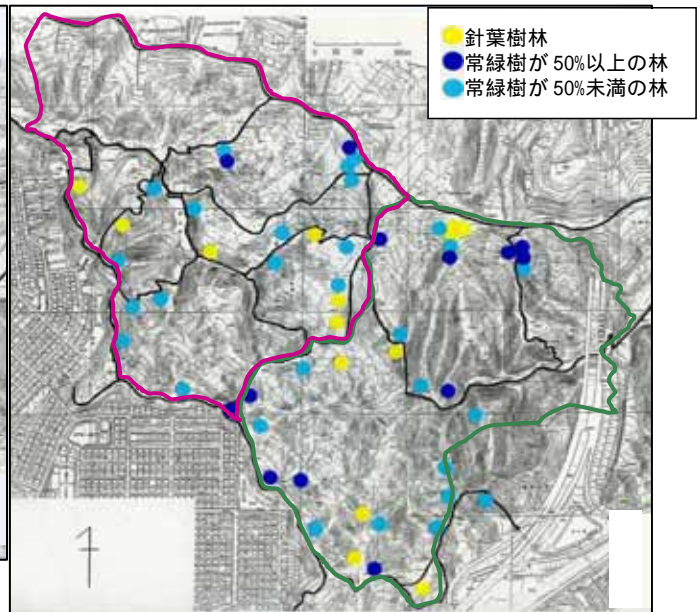


図8. 市民で調べた林相調査地点の木の種類
落葉樹林や混交林を詳しく調べると、
西よりも東の方が常緑樹が多い樹林が多い

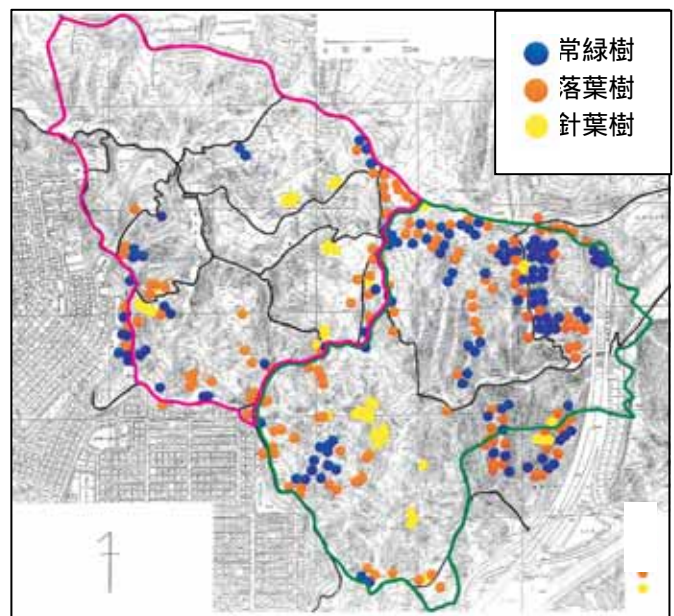


図10. 大木の分布

➡ 西よりも東の林の遷移が進んでいる

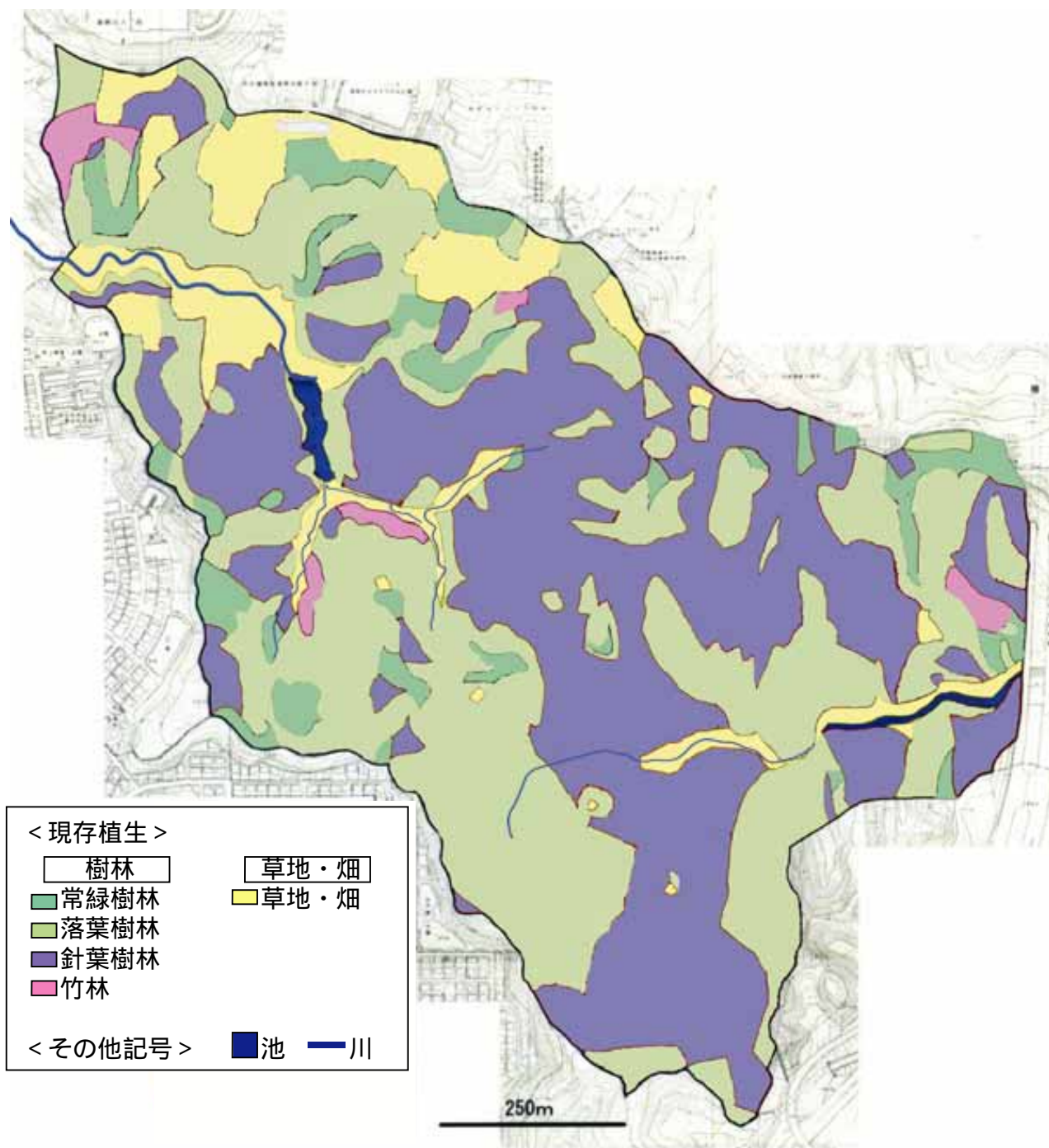


図 11 . 現存植生 2004 年

「横浜市円海山近郊緑地における 22 年間の植生変遷」(川瀬悟 2005)より改変

3. 源流の現状

- 1) 周囲を急斜面の樹林に囲まれた細い沢が多く、この沢沿いに、希少生物が多い(図 31,32)。市内でも生物の種数が多く、外来植物の割合が少ない源流である(環境科学研究所 2007 より)。
- 2) きれいな川にすむ水生生物や、湧水にすむ源流域の魚類が生息している。
- 3) 源流の山の東にある氷取沢は大岡川の源流で、樹林に囲まれている。川に張り出した木からは落葉や昆虫が落下して水生生物や魚類の食物となるため、これらの木が川の生物多様性を支えている。草地は一部を除き乾きやすく、止水がない。希少鳥類は、常緑樹林やその林床を好む種がいる。
- 4) 源流の山の西、いたち川源流にあたる瀬上沢の谷戸は広く(図 12)、様々な湿り具合や草丈の草地があり、また、止水としてため池があり、昆虫やカエル類の種類が多い。希少鳥類は、草地に面した林縁など、開けた環境を好む種が多い。
- 5) 源流沿いの草地には、希少種を含む湿地性植物がある(図 13)。

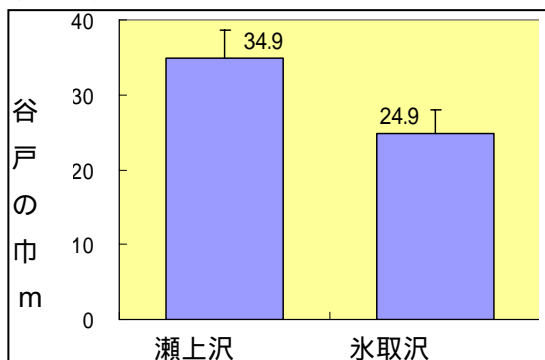


図 12. 谷戸の巾の比較



図 13. 湿地性植物の多い場所

4. 生物の状況

- 1) 横浜市の北部や内陸部とは異なる植生(ミズキ林や、市の北部・内陸部とは組成が異なるコナラ林)がある。
- 2) 神奈川県東部・横浜市内で希少な生物を含め、多くの生物が生息している。

5. 利用状況

源流の山の西には散策路や広場・休憩所が多く、人の利用が多い。

最も多く利用されている散策路は、源流の山を南北に通る、鎌倉方面へ向かう散策路である(図 14)。

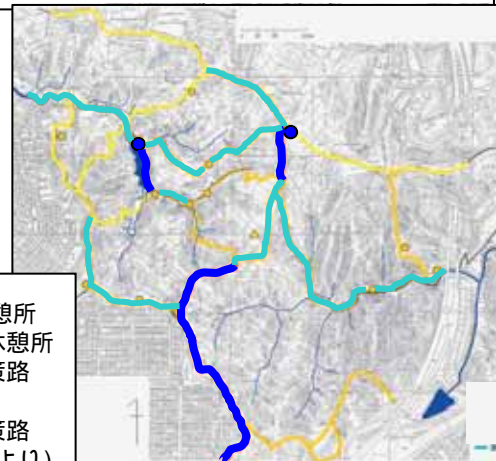
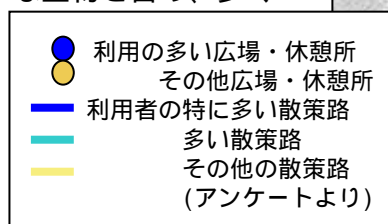


図 14. 利用状況

6. 管理の現状

散策路沿いと広場・休憩所・草地の除草が年 1 ~ 4 回行われている。市民によって、樹林の管理や、源流沿い草地の管理が行われている場所もある(図 15)。

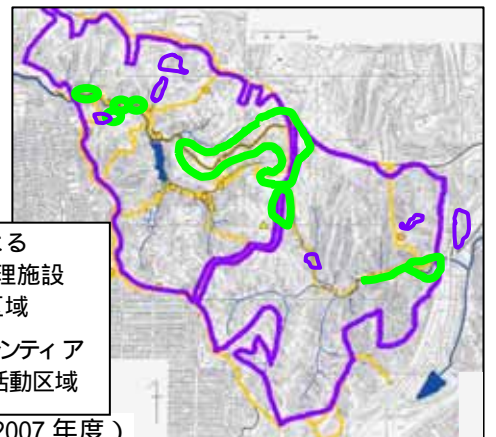
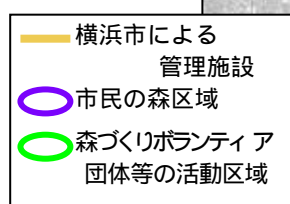


図 15. 管理場所(2007 年度)